

乳腺・内分泌外科

科長 今井 常夫（講師）

7E

他分野の協力も得た大学病院ならではの最善の治療法

乳癌、甲状腺、副甲状腺、副腎、膵臓などの腫瘍性病変に対する外科的治療を主に行っている科です。

診療体制

世界的に標準とされる治療法を基本として、大学病院ならではの最先端の技術を織り交ぜて最善の治療を提供できるよう努力しています。また、クリニカルパスを積極的に取り入れて、治療の効率化、均一化を図っています。

対象疾患

乳癌、甲状腺癌、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞種、副腎癌、副腎腫瘍、原発性および続発性副甲状腺機能亢進症、膵内分泌腫瘍、多発性内分泌腫瘍症。

得意分野

乳癌においては大学病院ならではの、多分野の専門家の協力による高度な画像診断、手術療法、薬物療法を行っています。甲状腺癌に対する甲状腺全摘術、副腎腫瘍に対する腹腔鏡手術件数は日本有数です。

診療実績

直近1年間の手術症例数は乳癌180例、甲状腺癌40例、副腎腫瘍30例、副甲状腺疾患15例です。低侵襲乳腺生検術であるマンモトーム生検は毎週5件以上施行しています。

専門外来

乳腺・内分泌外科外来

乳癌・内分泌外科におけるセカンドオピニオン外来

先進医療・研究

磁性発熱体を用いた再発腫瘍に対する温熱免疫療法の第一相臨床試験（当院のバイオ先進臨床研究審査委員会による承認済み）を行っています。

独自ホームページ

<http://www.med.nagoya-u.ac.jp/nyusen/>



整形外科

科長 石黒 直樹（教授）

5W・8W

外科的治療のみならず多岐に渡る高度な診療

当科は運動器、すなわち骨、軟骨、靭帯、筋肉に関する疾患の治療を行っています。

診療体制

当院には、リウマチ、股関節、脊椎、腫瘍、小児、膝肩そして手の外科の7つのグループがあり、それぞれ高度で、専門的な治療に積極的に取り組んでいます。

対象疾患

外傷外科、関節外科、脊椎外科、手の外科、運動器腫瘍外科、スポーツ医学、リハビリテーション医学といった整形外科の全領域を網羅するよう診療を行っています。また、外科的治療のみならず、内科的治療、リハビリテーションまで含み、その対象疾患は大変多岐に渡っています。

得意分野

運動器の機能温存を目的に治療を行っています。低侵襲手術をはじめ、可能な限り元の関節機能や神経機能を温存するよう手術を施行しており、手術だけではなく薬物による治療も積極的に行っています。なお、再生医療の技術を用いた治療方法も進めています。

診療実績

人工関節年間200例以上、脊椎手術年間120例以上をはじめ、関節形成手術、骨軟部腫瘍手術、小児整形外科手術、関節鏡下手術、上肢機能再建手術など多数の手術を施行しています。

専門外来

リウマチ、股関節、脊椎、腫瘍、小児、膝肩そして手の外科の7つのグループがそれぞれ専門外来を行っています。

先進医療・研究

先進医療としては再生医療技術を用いた細胞培養・移植による治療法を行っており、各種臨床試験を施行しています。また、他大学や企業との共同研究も多数行っています。

